



看護師20年・3人の子育てお母さん

藤田りょうこ

日本共産党都議予定候補 事務所ニュース

No. 18 2016年12月28日



写真は16日の対都交渉（高齢者介護）で当局に申入れる藤田候補（左から4人目）

共産党、積極提案で都政動かす

12月15日、都議会第4回定例会は、知事提案の全38議案を可決し閉幕、共産党は、34議案に賛成しました。共産党などが共同提案した議員の期末手当を増やさず据え置く条例改正案は、自民、公明などの反対で否決されました。

また本会議や委員会に出席するたびに、一日当たり1万～1万2千円を支給する費用弁償を、交通費の実費支給にする条例改正案は、自民、公明などが議決せずに継続審議になりました。

落札率が99%超となり談合疑惑のある豊洲新市

国民健康保険料は毎年の値

藤田候補のコメント

12月12日、日本共産党各特別区議会議員団・都議会議員団および東京都委員会は、西川太一郎特別区長会会長に対して、来年度の特別区国民健康保険料の引き上げをやめ、引き下げを求める申し入れを行いました。申入れには藤田りょうこ予定候補が参加しました。

藤田りょうこ候補ら特別区議員会に申し入れ

世帯が差し押さえる財産がなく、差し押さえの執行停止となりました。

大田区は区民の生活が逼迫

上で高い保険料となつております。大田区でも滞納世帯が36・6%にもものぼっています。

大田区が国保料滞納世帯にたいし、2千件の差し押さえを行ったところ、何と9割の

してある事実をしつかり受け止め、「国保は社会保障」であるという精神にたちかえり、自治体としてとるべき対策をこうじるべきです。

都議会定例会終る 自民公明が費用弁償改正先送り

場の建設工事について、共産党は、「入札監視委員会」から、都職員OBを除くように求めたのに対し、小池知事はOB以外から選定するよう事務方に指示したと答弁。

都民に良い」とは前にすすめる

共産党は、「都民にとつて良いことには賛成し、よりよいものにするために積極的に提案する」姿勢で臨みました。そして東京五輪の施設整備費の高騰については小池都知事が費用削減をはかったことを評価しました。



大田民報

2016年12月号外

大田民報社 北馬込1-4-12 佐藤方

日本共産党大田地区委員会の見解を紹介します。

連絡先

Tel 03-3736-1494 Fax 03-3735-4522
URL <http://r-fujita.jcp-ota.jp/>
Mail r-fujita@jcp-ota.jp

藤田りょうこさんを何としても都政へ

わたしも
応援
します！

看護師で、庶民のために頑張る、

藤田りょうこさんを都政に

日本共産党大田労働者後援会 会長 小林 清

んとしても都政に送り出した
いと思つてはあず。

藤田りょうじさん
療労組の役員として、人手不足、低賃金など医療現場の改善のために、社会保障制度の改悪阻止のために、元気にはつらつとして頑張っている姿をよく覚えています。彼女の明るさ、前をしつかり見据えて看護師として生き生きとして働いている姿に感心しました。

3人の子どもさんを育てながら、看護師として20年医療現場で弱者に寄り添つて働いてきた藤田さんが都議会議員に立候補すると聞いて、な



藤田りょう一さんと握手を交わす
小林清さん（左）

で働くかされている社会を
なんとしても変えなくて
は思っています。
そして大田区から藤田
りょうこさんと佐藤伸也
さんの2名を送り出すため
にがんばります。

働く者が、低賃金・不
安定雇用に追いやられ、

藤田りょうじさんは、全力
疾走で活動できる知性・意欲・
パワーを持っていますので、
今から楽しみです。

都政は、食の安全を無視する築地市場の豊洲移転問題や、安心して子どもを預けられる認可保育園の増設と保育士の待遇改善、誰もが安心して医療を受けられる医療現場の改善など、都民生活に直結した

《新春のごあいさつ》

※雨天中止または変更の場合あり

- 1日(日) 本門寺
午前11時
午後 1時
 - 2日(月)
 - 4日(水) 朝・蒲田東口
午後 挨拶まわり
 - 5日(木) 朝・大森駅
 - 6日(金) 朝・蒲田東急口
午前午後 挨拶まわり
 - 6日(金) 夜・蒲田西口

藤田りょうじ成長記

18 母 沢井正代



当時から得意だったマラソン、校内大会で1位になつた（場所：こどもの国）

個別指導から一斉授業に変わると、そのスピードに全くついてゆけず、あまり弱音を吐かないりょうこがとうとうやめたいと相談してきました。

あつたことが幸いしました。
あとは小論文です。これには高校の先生の指導援助で本当に助かりました。
いろんな幸運に恵まれ、
ただ一つ受験した都立医療技術短期大学に無事合格で
きました。このころの就職状況はバブルということもあり、売り手市場で、高卒でも銀行も含め大手企業に就職することができました。
無理な大学受験をし、浪人するくらいなら就職したほうがいいという時代でした。

なので進学塾をやめ、受験も一般入試から推薦入試に切り替えました。それまで無遅刻無欠席、1年生の時からまじめに勉強していたこともあり、成績も推薦を受けることができる程度で

